

センター
便り

絆

きずな

第169号

発行所

社会福祉法人
西陣会

HP: <http://www.nishijin.org>
E-Mail: nishijinkai@nishijin.org

〒602-8464
京都市上京区元誓願寺千本東入ル
TEL (075) 451 - 8971
FAX (075) 451 - 5700

発行者: 水上雄一郎
編集責任: 浅田将之

郵便振替口座
01030-5-23086

ホームページでも
ご覧になれます

当法人への寄付金は、課税控除対象となりますので、その為の受領書が必要な方はお申し出下さい。

薬(ひこばえ)となつて

早世された多くの友を偲び…

西陣会支える会 会長 井上 晁

終日、機音が鳴り響く西陣界限。千本通りには市電が走り、夜には「千づら」を楽しむ人たちが溢れていた。そんな五十年前—

薨の棟が連なる町屋の中に、一風変わったコンクリート打ち放し三階建の、建築家黒川紀章氏の処女作、西陣労働センターがあった。

学校法人同志社やキリスト教関係団体を母体する財団法人西陣会がその五年前に建設運営し、その活動体として、「西陣友の会」があった。そこには様々なサークルで連日賑わい、いつの間にか足繁く通う日が続いた。好景が続く中、地域では共働き家庭が増え、「鍵っ子」問題が持ち上がり、セ

ンターとしては初めての行政委託による学童保育所を開設する。

そんなある日、事務局長の真下さんがポツリと一言。「センターが、潰れるかもしれない」

啞然としている私に、法人設立時の借入金返済に窮している事実を話された。

設立から十年目。スタッフの仕事を補助する「活動推進委員」制度を創設。友の会より七名がその任にあたり、各部門を担当した。

翌年には、十一年間続いた診療所を閉鎖。三階和室にあった学童保育所が同所に移る。

そしてその年に、一年遅れの創立十周年記念誌「仕

えることによつて」を発刊。京都堀川会館で近隣の方々も招き盛大に式典を催した。活動推進委員会、最初の仕事であった。

しかし、翌年にはスタッフも最少の三名となり、財政的窮状はまだまだ続いていた。

その後も試行錯誤を繰り返していた十三年目。好況の続く西陣業界を中心に、「後援会」が発足。同時に自らも身を切る覚悟をと「賛助会」を設置。活動に携わる人達が大量参画された。

十六年目には、家庭療育援助グループ「ピーポ」との出合いがあり、学童保育所児童との統合保育が任意で開始された。

その後、学校法人同志社よりの土地寄贈があり、基本財産を確保。十九年目にして西陣総合児童館の完成を見たのである。

翌年には、二十周年記念誌「共に生きる」を発刊。

自らの館で手作りの記念式典が開催された。

その二年後には、将来の老人問題を考える為に「老人配食サービス」を立ち上げた。京都新聞全面にセンターの活動が掲載され、講習会には京都一円からの支援者が集まり、その後二十年間の活動の端緒をきつた。

こうして三十周年を迎える頃には、「青年」「児童」「障がい児者」「老人」に関わる福祉の四本柱に取り組みに至ったが、その後は一般事業者が手をつけづらかった「児童」「障がい児者」事業の充実に専念。センター精神からして当然の流れであった。

こうして大勢の方々のお支えと、ここに働くスタッフの懸命の努力と献身が実を結び、五十五年目を迎える礎が築かれていった。

弥生三月—



今年も笑顔がはなざかり♪(ワイワイクラブバンド)

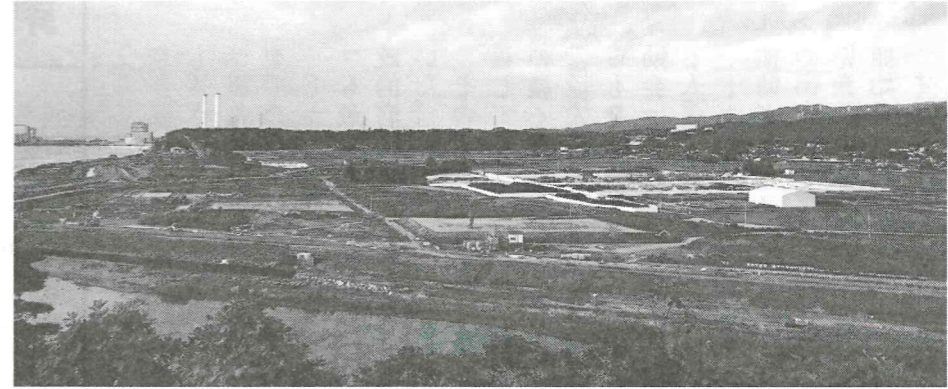
『福島支援を通じて想うこと』

支援センターにしじん 所長 宇川 征宏

いわき市から国道六号線を北上し、広野町、楢葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、南相馬市を通ると、その町町の違いを明確に感じることが出来る。住んでいる町、住み始めた町、住み始めることを検討している町、あの日から手つかずの町。何度通つても自分達のせいではなく、無理やり望んでいない生活を強いられた辛い思いを思っている人々のことを思うと、言葉には出来ない思いが溢れてくる。場所によっては、まだまだ高い数値の放射能が計測される。テレビや新聞等からは、一方的に「放射能は薄くなつてきた……」「復興に近づいてきた」と報道されるが、本当にそうなのだろうか？

口に出せる出せないの違いはあるにしても、人々の心には消えることのない傷がそのまま残されているように思う。年月が経つにつれて、出てくる状況や様々な感情のことは、重要視されず、今まであった配慮(家賃補助等)がなくなつていく。「配慮がなくなるから、帰りましょう!」「住み慣れた故郷で明るく楽しく暮

らせますよ!」ということに前面に出し、帰町(村)を促そうとする風潮もチラホラ目につく。自分で情報を取捨選択し、そこで生きるということを決められる方は、そのようなメッセージを出せるかもしれないし、そのメッセージに同調する方もあらわれようと思われ。ただ、全ての方がそうではない。自分では選択できない人も多くおられる。「帰るか? 帰らないのか?」の判断基準も分からず、安全が現実視されている訳ではない中で、当たり前のように帰町(村)が推進されることについて、疑問を感じるような選択をしても、正解もない中で悩み続け、自分自身との問答が生涯続くのではないだろうか……



天神岬からの眺め

「福島県被災地における障害福祉サービス基盤整備事業」アドバイザー派遣事業事務局の一員として福島県の手伝いをさせて頂くようになって、早いもので、五年が経つた。派遣当初は、何も分からなかったが、ただ行くだけで、傍にいるだけで、良かったように思う(勝手にそう思っているだけか

もしれないが)。関係が出来、少しずつ状況理解をしていくにつれて、目の前にある問題や課題に対して、難しいな、苦しいなと言いつつも、何か具体的な成果物を

からの生き方のこと等)のとてつもない大きさを知るようになる。私達、対人支援職が大事にしている本人らしさや、本人の思いをいくら訴えようも、どうしようにもできない、沢山のこころが出てくる。同時に、現地の支援者の疲労を強く感じる。私達によかれと思つた活動や言動に引つ張られているのではないのか、無理をさせているのではないのか……とその思いを持ちながら活動をしだすと、言いたくることが言えなくなつていく。地域の特性や考え方が異なるから……となると、消化できない思いが出てくる。どうして、同じ仕事をしていのに、ここまで悩まなければいけないのだろうか……悩んでもどうしようもできないから、目の前のことを深く考えずにやるしかない……と思ひ込んでいるようにも感じる。

福島県といえども一つの括りで考えることは出来ない。地域により元々の文化の差があるだけでなく、被災における問題も違つてきている。とりわけ、私達が関わらせて頂く浜通りの状況はより深刻である。働く人が少ない。支える資源(支援)が選べない。そのような中で、本人らしい生活に近いような関わりをしていくためには、同じような想いをもつ仲間を増やしてい

かなければならない。ただのつながりではなく、責任をもって協働することが出来るつながりを作ることが大切で友人夫妻が浜通りの中心(楢葉町)にて、NPO法人を立ち上げた。その人が、思い悩んだ場所を支えたい。その思いには強く共感している。そんな彼らの思いが伝わるような地域になればいいのにとつくづく思う。本当に復興を考えるのであれば、全てのことを画一的にするのではなく、そこで支援のあり方は基準等関係なく、暮らし易さ(関わり易さ)優先であつてもいいのではないだろうか……そのように考えてしまつと、私自身も知らず知らず、無知なのにも関わらず帰町(村)を推しているんだと思ふ。

世間では、被災を受けた東北三県への興味や関心が薄くなつてきているように感じる。自分で選んだ地に住む人の生き方が肯定されるように、お一人お一人の思いを大切にしながら、出来ることをしていきたいように、現地の状況を多く仲間と共に伝え続けたい。好きななつちやたんです東北。大好きなんです東北の仲間達。頑張ろうではない、頑張つてんだよ、頑張りがすぎでんだよ、東北。

地域生活支援「ユース」

西陣会居宅サービス係

「ちょっと待って」から摘む虐待の芽

尾崎 暢 俊

居宅サービス係では、虐待防止の観点から設けた項目について振り返りを毎月実施しています。個々の職員が自身の反省から、自身に潜む虐待のリスクへの意識付けを行っています。

個々人の自覚と同程度かそれ以上に、事業所全体としての虐待への態度も重要です。普段より虐待について考えて話し合い、明らかでない虐待事案はもちろんのこと「もしかしたらこれは虐待かも……」という時にも相談し合える環境。これを整えて、維持していかなくてはなりません。

月一度の職員会議の中で、事業所全体で取り組む虐待防止に向けた目標を設定しています。先の二月の会議では「ちょっと待って」事業について相談する」という目標を設定しました。「ちょっと待って」とご利用

者者にお願ひしてしまう文脈は様々ですが、ほとんどの場面で支援者の用意や心構えの不足があるものです。「ちょっと」だからと簡単に口から出る、曖昧な表現、こちらの都合で時間をもらうための説明としても不適切、そもそも口にしていないことに気づいていない……小さなことの積み重ねがその人の権利侵害に繋がっていくことを、常に恐れ、考えるべき立場に私達はあります。

自分の引け目を告白するのは難しいことですが、皆にも覚えがあることなら、互いに相談し始める敷居は下がります。当たり前になつてしまつていることの中に潜む「芽」に気付く「自分だけ」「この程度のこと」と思い込まない。そんな風土を培う取り組みをしています。

デイセンターから

健康診断の新たな取り組み

ユニトリリーダー 五十嵐 伸 治

今年も健康診断の季節になりました。二十六名のご利用者が受診してくださいました。今回は以前に報告させて頂いた課題「視力検査」について述べたいと思います。

視力検査の測定結果が出たご利用者は今回も数名でした。中には模擬の検査機を作成し、事前に視く練習を何度も行って、みごと本番で測定できた方もいらっしゃいました。大半のご利用者が、検査機を覗けない、覗けても指示(一番はどこが開いていますか?)が理解できない、理解できても言葉でうまく伝えられない等の理由で結果が出ませんでした。

そこで、ふらつと内で視力検査を実施することにしました。まず検査表ですが、健康診断でも使用されていたランドルト環(円の一部が切れているタイプ)の他に、昔ながらの平仮名や数

字も列記されているタイプと鳥や魚の影を答えるタイプの物を用意しました。また遮眼子(スプーン形の大きな物で片目を隠す物)の片側を遮蔽した物を二つ用意し、また指示棒の代わりには真中に穴の開いた型紙を用意して、どこを見ればよいかすぐに解るようになります。一番の課題の表出方法ですが、発語のある方は別とし

て、手元に検査表と同じ物一枚のカードとして用意し、わかればそのカードを渡してもらるか、検査表と同じマークをアトランダムに並び替えた物を一枚の大きなシートにして、その中からご本人の指差しで教えてもらおうと思つています。この取り組みで普段の支援の向上が図れればと思っております。



おかげ横丁

ショートステイゆう

問らじげけること

所長 寺田 文

ショートステイゆうは、二〇一三年四月の開所から五年目を迎えました。新たな登録希望や連泊・もつとたくさん泊まりたいといったご希望内容の変化は絶えず、忙し状況です。どんなに忙しい状況であっても、お一人お一人にとって心地良い場所でありたいという想いは大切にしたいと思っています。

ただ、その気持ちと同時に「この四年間、何が出来たのだろうか……」と思う気持ちの方が強くなります。事業の目的が緊急一時保護やレスパイトケアという部分を担う中で、ご本人が宿泊を望んでおられない事もありました。ご家族の高齢・介護負担の強さもあって暮らしの場を自宅以外に移行された方も居られました。ご家族等の緊急事態があった際にも、支えになれない

事も何度かありました。そんな時、「自分たちはこの人に何が出来たのだろうか……」「これで良いのだろうか……」という自身への問いかけが強く残りました。

自宅以外の場所で泊まり慣れる事は、自宅以外の場所でも暮らせるという事と必ずしもイコールでは無いと感じます。「暮らせる」なのか「暮らしたい」なのか？

どこで誰とどのように暮らしたいと思われているのか？ そのご本人からの問いにしっかりと向き合えないといけないと思っています。

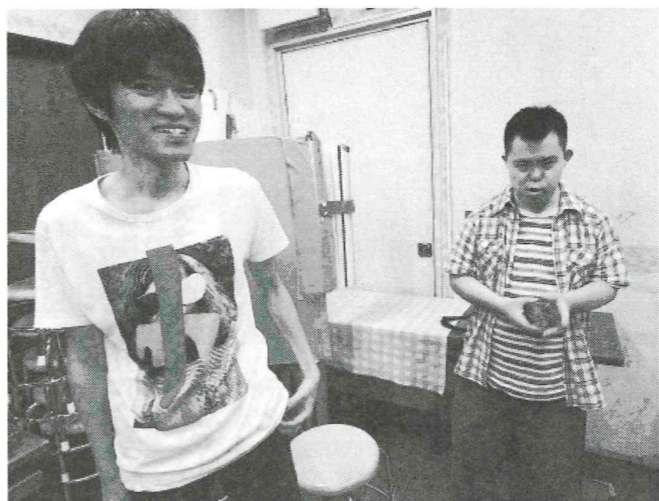
五年目を迎えたショートステイゆう。出来る事は限られているのかも知れませんが、お一人お一人からの問いに向き合い、暮らしたい場所で暮らしつづけるように、今年も励んでいきたいと思っています。

地域活動支援センター「ふらっと」

「私にやっつての、地活ぶらっとの魅力」

ボランティア 土井 将人

ボランティアとして地活ふらっと(以下、夜ふら)にお邪魔するようになってから、三年が経ちました。この三年のあいだ、「今日の活動はつまらなかつた」とか「今日は来なければよかつた」とか思ったことは、一度としてありませんでした。夜ふらからの帰り道は、いつも愉快な気持ちでニヤニヤしながら、夜の今出川通



を自転車で疾走します。夜ふらに継続的に来るうちに、メンバーさんとの関係も、多少変化してきました。メンバーさん個々の好き嫌いや少しずつ分かってきました。逆に、メンバーさんのほうも、私のことを以前よりよく分かってくれているように感じます。そうした変化はとても大切にしたいです。

しかし、私にとつて、夜ふらでの活動は、楽しいだけでなくでもないように思います。誤解を恐れつついうなら、私にとつて、夜ふらでの活動には、「楽しみ」と常に不可分で、「苦勞」が伴います。例えば、メンバーさんが、その時々で何を望んでいる

のか、何を伝えようとしてくれているのか、あまり分からないという苦勞。また、そうした「メンバーさんの望みや言葉が分からない」という苦勞は、同時に、「私自身の言動が(メンバーさんの望みや言葉に)応えるものになつていないのかどうか」分らない」という苦勞でもあります。

メンバーさんのことを多少知つても、今書いたような「苦勞」が「全くなくなる」とはいえ、そうした苦勞は、私だけのものでもなく、また、夜ふらにしかないものでもありません。誰もが、そうした苦勞に、職場、地域、家庭といった、人と人が関わる場で、常に直面しています。しかし、それでも、人との関わりは「楽しい」です。

私にとつて、夜ふらは、そうした、人と人が関わることの「苦勞」と「楽しみ」が、凝縮したかたちで立ち現れる場です。そこで、メンバーさんと職員さんと、毎回一つの活動をする。それ自体が、私にとつて魅力的な、「苦勞」と「楽しみ」です。いつも、ありがとうございます。これからもどうぞよろしく願います。

支援センター「きらりリンク」

京都市における障害福祉サービスの相談窓口の再編

相談員 小野 紀代子

京都市では、子育て支援施策の一元化を目的として四月一日に「子ども若者はぐくみ局」が創設されました。これに伴い、各区役所・支所の障害者の相談・申請窓口も再編され、五月八日からの稼働が予定されています。

福祉事務所と保健センターに各々設置されていた担当部門を統合し「障害保健福祉課」として新たに位置づけ、身体・知的・精神の三障害に難病を含め対応するということです。

これまで、例えば精神と知的等の重複障害のある方の相談は、福祉事務所・保健センターの各窓口へ足を運ばなければなりませんでしたが、それが今後は障害保健福祉課で相談できるようになります。

ただし障害児については、

支援センター「にしじん」

日々の支援で思うこと

相談員 浅田 叔子

「にしじん」で働くようになり、もうすぐ三年目に入ります。のんびりした田舎(福島県いわき市)から都会の京都市に来て、毎日戸惑いの連続でしたが、少しずつ生活にも仕事にも慣れてきました。

地域での相談支援専門員は思っていた以上に大変でした。障害特性、制度、地域資源などの知識が足りない。関係機関との連携ってどうやったらいいんだろ？ 素早くサービスに繋がらないと。周りが見えずに動いていると、その都度先輩から「ご本人はどう思っている？」と指摘いただき、はっと気づいてご本人に向き合います、の繰り返しです。先輩方の働き方を見せたいいただき、ご本人に丁寧に向き合うしかないんだなとつくづく感じています。

京都市では、事業所や学生

ボランティアも多く、資源が豊富なことに驚きました。一方で、医療的ケアが必要な方の資源は足りないこと、親亡き後の生活をお心配するご家族の気持ちなどをお聞きし、前職で充分支援ができたことが本人やお母さんたちを思い出し、申し訳ない気持ちになります。

原発事故を境に、たくさんの方が暮らし方・生き方の選択を迫られました。悩みぬいて選んだ生活が、時には否定され非難にあう状

況を見聞きするたび、遠く離れた私にできることは何なのか考えるものの、行動できずにいます。今はまだ「にしじん」で出会う方たちが尊重され、肯定されるような支援環境をつくれるようになっていきたいと思います。



デイ学食体験 in 同志社大

路地裏ステーションニュース

西陣児童館

中高生企画募集中!

主任 鬼塚 義正

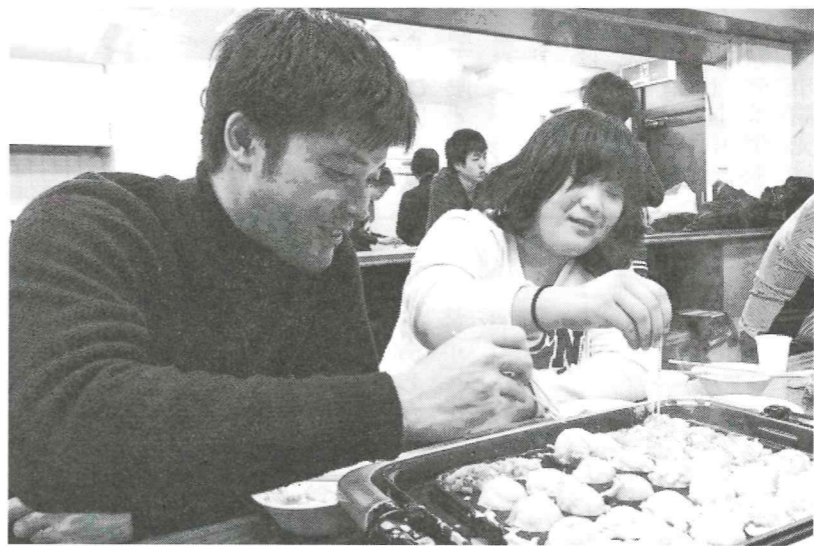
今回のイベント「たこ焼きパーティー」において、中高生の学童OB・OGやお世話になってきたボランティアさん、お忙しい中参加していただき大変うれしく思っています。

みんなで楽しく盛り上がり、たこ焼きを食べながら学童の頃のエピソードをしゃべったり、とてもいい日になったと思います。さて、今回のイベントにつきましては本当に感謝しています。今回のイベントだけではなく、また機会があれば、イベントや行事をたくさんの中高生達に来ていただけるように取り組んでいきたいと思えます。学童のOB・OGの中高生はもちろん、そうでない中高生もその時には足を運んでくれるとうれしいです。

(糸井涼音)

中高生を対象としたイベント「たこ焼きパーティー」を二〇一七年一月に実施しました。その際に今回のイベントと一緒に企画して実施したのは学童OGで

高校生の糸井涼音さんでした。児童館のイメージは小学生が利用の中心と子ども達自身も思っているかもしれませんが、児童館の対象者は〇歳〜十八歳までが利用できる、誰が来てもいい場所です。日常的



タコパでの懐かしい再会

に学童クラブの登録児童が多く手狭な会館ではありますが、中高生が来てほっこりできる時間や場所を作っていきたいと児童館では考えています。イベントをするにあたって、気づきや目的のためだけではなく、まずは中高生の思う「自分たちがやりたいこと」をどうやって実現していくかの後押しを今後もしていきたいと思っています。

(鬼塚義正)

京都市障害のある中高生のタイムケア事業「ういず」

活動を再開して

ボランティア 新井 澄江

ういず開所当初からのボランティアである新井さんよりご寄稿いただきました。

四年余りの空白の期間を経て、再び活動させて頂いております。

職員の皆様や非常勤の学童さん達とは、以前にも増して年齢差が生じており、戸惑うこともありましたが私なりに年を重ねて得た経験と知恵を活かして活動してゆきたいと考えております。

又、若い方々が子ども達と接しておられる姿を見せて頂き、私は型に嵌った言動をしていると気付かせられることもあり、反対に意見や提案をさせて頂くこともあります。若い方々には耳障りで古臭い事と感じられるかもしれませんが、必要と思うことはこれからもお伝えしてゆかねばと思っています。

子ども達とは時間の経過とともに親しく接する事が

できるようになりました。まだ十分とは言えませんが一人ひとりの個性を少しずつ捉えられているのかと思います。私の名前を覚えてもらった時は嬉しく思いますが、お話をゲームをして、私自身も楽しく過ごさせて頂いています。でも、ついつい先回りして出来る事を取り上げてしまっているかも知れません。反省する事も度々です。

職員の方々も子ども達の特徴や状態をしっかりと把握しておられ、振り返りの時間には的確な指導をして下さいます。きめ細かな対応は難しいですが、一人ひとりが持つておられる能力を伸ばすお手伝いをしてゆきたいと思えます。

今後も、職員の方々の助言を頂き、又若い方々の視点からも学びながら出来るだけ長く続けさせて頂きたいと思っております。

活動日誌

【本部業務・公益事業】

- 4日 上京区民新春の集い (浅田常務理事)
- 6日 京都市新春福祉の集い (浅田常務理事)
- 10日 福島県アドバイザー派遣事業で福島へ (浅田)
- 23日 1日 財務会議
- 23日 2日 正規職員会議
- 23日 7日 登用試験
- 21日 西陣会55周年記念企画実行委員会
- 16日 月曜集会
- 14日 人材育成検討委員会
- 14日 13日 人材育成検討委員会
- 8日 8日 人材育成検討委員会
- 27日 27日 産業界面談相談会
- 27日 月曜集会
- 3月 4日 福島県アドバイザー派遣事業会議 (浅田)

【西陣児童館】

- 6日 6日 評議員選任・解任委員会
- 7日 7日 西陣会55周年記念企画実行委員会
- 8日 8日 桜まつり実行委員会
- 9日 9日 MYM研修会「自閉症についての学習会」
- 13日 13日 人材育成検討委員会
- 13日 月曜集会
- 27日 27日 産業界面談相談会
- 1月 11日 11日 京都府放課後児童支援員認定資格研修 (松井)
- 21日 21日 中高生企画「たこ焼きパーティー」
- 26日 26日 上京区人づくり21世紀中学生トーク (鬼塚・藤原)
- 2月 15日 15日 京都府放課後児童支援員認定資格研修 (松井)
- 16日 16日 京都府立大学実習生受け入れ(2名)
- 16日 16日 保健センター健康サポーター(本多・野崎)
- 22日 22日 乾隆小学校運営協議会(中山)
- 25日 25日 子どもフェスティバル
- 3月 4日 4日 学童クラブ新規利用保護者説明会
- 10日 10日 学童クラブスプリング☆キャンパ
- 18日 18日 支援ステーション事業「ドゥニヤカライフ」
- 29日 29日 ピープル・テイクオフ学童クラブ卒部生に贈る会

【居宅サービス係】

- 6日 6日 居宅介護等事業連絡協議会 (浅田・水瀬)
- 30日 30日 居宅職員会議
- 30日 30日 強度行動障害支援者養成研修(実践研修) (高田)
- 1月 3日 3日 京都市自立支援協議会児童部会 (浅田)
- 13日 13日 居宅職員会議
- 13日 13日 強度行動障害支援者養成研修(実践研修) (高田)
- 25日 25日 上京区障害児者生活支援連絡会(近藤)
- 25日 25日 ヘルパー研修会「てんかん発作の基礎知識」 (若田・尾崎)
- 3月 10日 10日 相談支援現任者研修 (浅田)
- 12日 12日 居宅職員会議
- 17日 17日 協議会理事会議
- 21日 21日 上京区障害児者生活支援連絡会(近藤)
- 22日 22日 衣笠学区市政協力委員会(浅田)
- 23日 23日 相談支援現任者研修 (浅田)
- 29日 29日 京都市自立支援協議会 (浅田)
- 1月 26日 26日 共有会議
- 2月 3日 3日 京都市生活介護等連絡協議会勉強会(4名)
- 6日 6日 災害支援専門部会研修会(本林)
- 13日 13日 強度行動障害支援者養成研修(普・田中)
- 16日 16日 共有会議
- 16日 16日 全体行事・学食体験 (同志社大学)
- 21日 21日 上京区障害児者生活支援連絡会(本林)
- 23日 23日 デイ旅行・伊勢志摩
- 28日 28日 京都府立大学実習生受入(2名)
- 3月 9日 9日 家族交流会
- 10日 10日 相談支援従事者現任者研修(本林)
- 21日 21日 全体行事・映画会
- 23日 23日 上京区障害児者生活支援連絡会(本林)
- 31日 31日 年度末休業日
- 13日 13日 現認研修(23日・24日)
- 11日 11日 難病者コミュニケーション支援講座
- 13日 13日 京都市社協日常生活自立支援事業審査会
- 1日 1日 上京区定例会
- 3日 3日 福祉センター協議会
- 6日 6日 京都府立大学実習生受入(2名)
- 13日 13日 京都府立大学実習生受入(2名)
- 16日 16日 京都府立大学実習生受入(2名)
- 17日 17日 相談支援現任者研修
- 17日 17日 地域移行研修会
- 2月 1日 1日 上京区定例会
- 3日 3日 福祉センター協議会
- 6日 6日 京都府立大学実習生受入(2名)
- 13日 13日 京都府立大学実習生受入(2名)
- 16日 16日 京都府立大学実習生受入(2名)
- 17日 17日 相談支援現任者研修
- 17日 17日 地域移行研修会
- 3月 1日 1日 上京区定例会
- 10日 10日 相談支援現任者研修
- 16日 16日 京都府立大学実習生受入(2名)

【きらリンク】

- 6日 6日 北部自立支援協議会運営
- 22日 22日 京都市障害者相談員研修会
- 25日 25日 基幹支援センター圏域研修会
- 31日 31日 京都市社会福祉協議会生活支援員養成研修
- 2月 8日 8日 基幹支援センター圏域権
- 27日 27日 左京介護事業者連絡会
- 27日 27日 基幹支援センター協議会
- 27日 27日 全体会議
- 3月 2日 2日 相談支援専門員等スキルアップ研修会
- 10日 10日 京都府相談支援専門員

【にじじい】

- 9日 9日 中部自立支援協議会事務局
- 11日 11日 現認研修(23日・24日)
- 13日 13日 難病者コミュニケーション支援講座
- 13日 13日 京都市社協日常生活自立支援事業審査会
- 1日 1日 上京区定例会
- 3日 3日 福祉センター協議会
- 6日 6日 京都府立大学実習生受入(2名)
- 13日 13日 京都府立大学実習生受入(2名)
- 16日 16日 京都府立大学実習生受入(2名)
- 17日 17日 相談支援現任者研修
- 17日 17日 地域移行研修会
- 2月 1日 1日 上京区定例会
- 3日 3日 福祉センター協議会
- 6日 6日 京都府立大学実習生受入(2名)
- 13日 13日 京都府立大学実習生受入(2名)
- 16日 16日 京都府立大学実習生受入(2名)
- 17日 17日 相談支援現任者研修
- 17日 17日 地域移行研修会
- 3月 1日 1日 上京区定例会
- 10日 10日 相談支援現任者研修
- 16日 16日 京都府立大学実習生受入(2名)

※毎月、施設長会議・主任会議を実施しています。その他、諸事業諸活動においても定例活動を行っております。

法人設立55周年記念

京都市民福祉センター
館長 浅田将之

法人設立55周年を迎える今年、これまで支えてきてくださった方々や、今支えてくださっている方々とともに、この大きな節目を迎えられた喜びを分かち合いたいと考えております。

これまでの歩みを振り返り、現在の在り方を再確認し、これからのような法人として地域社会で役割を果たしていくのかを皆様と展望することを目的として、西陣会設立55周年記念企画を行います。

◆実行委員長

塩田真里絵さん

(支援センターきらリンク)

◆西陣会設立55周年記念会

未来へGOOGO!

(これまでの軌跡)

◆記念会の日程

2017年11月26日(日)

◆記念会の会場

新島会館(京都市上京区)

実行委員会において、イベントの企画、記念会のプログラム、内容などを話し

合つていく予定です。決まり次第、センター便り絆でご案内いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

京都市民福祉センターの活動には皆様からいただいた寄附金の一部も充当させていただいております。

地域生活支援事業 バックアップ会員報告

皆様から心温まる会費を頂き心より感謝申し上げます。

二〇一六年度報告

福井 治子 中山 あい

鬼塚 義正 山本みちる

小西 秀和 宮崎 一弥

(順不同・敬称略)

計 十二口(一万二千円)

累計 百一十二万九千四百円

二〇一七年三月十八日現在

郵便振替口座(バックアップ会員専用振替口座)

加入者名

地域生活支援事業委員会

口座番号

〇〇九〇〇三―三三七一九

今後ともどうぞよろしく
お願い申し上げます。

センター往来

◎1月29日(日)西陣会合同新年会を遊戯室にて行いました。雨が降り、足元の悪い日でしたが、総勢60名のご参加をいただき、皆さまと親睦を深め、お鍋を囲み、おなかも心もあたたまる会になりました。誠にありがとうございました。

◎2月16日社会福祉法人制度改革に伴う定款変更の認可がおりました。

◎2月28日「西陣会ホームテイユー」及び「シヨートステイ」設置工事が無事完了いたしました。日常的な火災予防の意識も向上させながらより安全安心な生活空間にしていきたいです。

◎3月4日(土)東館にて福島県被災地における障がい福祉サービス基盤整備事業アドバイザー派遣事業の事務局2名と関西応援者8名との振り返りの会を行いました。応援活動を続けていくことを確認しました。

◎3月6日(月)評議員選任・解任委員会が開催され、理事会から推薦された評議員候補者が承認されました。

◎3月12日(日)予算理事会、評議員会が開催され、2017年度予算と事業計画が承認されました。

◎3月26日(日)2016年度町内会長をしていただいた京都市北区小松原北町南部町内会の引継ぎ式(総会)

にて、町内会役員を引き継ぎました。

◎4月1日から新定款が施行となり、定数が変更となった新評議員の4年の任期が始まりました。引き続き法人運営にご理解、ご協力よろしくお願いいたします。

◎4月2日(日)法人設立55周年記念！桜まつりを開催しました。心より、皆様に感謝申し上げます。

職員人事(常勤職員)

入職

法人本部
小野 恒平(17年4月)

部署異動

居宅サービス係
湯川 力樹(デイより異動)

支援センター にしじん
池内あかり(デイより異動)

退職

居宅サービス係
高西 隆馬(17年3月31日付)

支援センターきらリンク
吉田 耕平(17年3月31日付)

計 報

二月二十八日(火)デイセンターふらつと職員酒井歳郎さんのお母様(享年九十六歳)がお亡くなりになりました。

三月二十九日(水)元副理事長 故 金子紀明さんの奥様 栄子さん(享年七十五歳)がお亡くなりになりました。

天上での平安をお祈りいたします。

住所変更のある方、当機関誌のご不要な方はFAXにて(075)451-5700 迄ご連絡下さい。

社会福祉法人 西陣会

法人本部

京都市民福祉センター

地域活動支援センター

ふらつと

地域生活支援事業

レスパイトサービス

〒六〇二―八四六四

京都市上京区元誓願寺通り千本

東入る元四丁目四三〇番地二

TEL 〇七五 四五二 一八九七

FAX 〇七五 四五二 一五七〇

西陣児童館

京都市障害のある中高生の

タイムケア事業 ついず

〒六〇二―八四六四

京都市上京区元誓願寺通り千本

東入る元四丁目四三〇番地三

TEL 〇七五 四五二 一七三二

FAX 〇七五 四五二 一五二九

デイセンターふらつと

TEL 〇七五 四一七 三三四

FAX 〇七五 四四一 一五二九

京都市中部障害者地域生活

支援センター にしじん

〒六〇二―八二二六

京都市上京区西堀川通元誓願寺

上ル堅門前町四一四

TEL 〇七五 四一七 一六三〇

FAX 〇七五 四五二 一三六一

西陣産業会館1F

京都市北部障害者地域生活

支援センターきらリンク

〒六〇六―八四一六

京都市左京区浄土寺上馬場町一七一

〒六〇二―八四六四

京都市上京区元誓願寺通り千本

東入る元四丁目四二四番地一